

# ベルマーク新聞 10月号

発行 公益財団法人ベルマーク教育助成財団 東京都墨田区両国3-25-5 JEI両国ビル9階 〒130-0026 電話 03-5638-2320(代表)  
郵便振替口座 00100-7-56035 ホームページ <https://www.bellmark.or.jp/>

## 運動の意義やしくみ、広くアピール

### 「GOOD LIFEフェア2022」に財団がブース出展



①来場者でにぎわうベルマーク財団のブース ②東京ビッグサイト入り口に設置されたフェアの案内 ③④⑤協賛会社が提供してくれたベルマーク付き商品の展示は大好評だった

東京・有明の東京ビッグサイトで9月23～25日に開かれた「GOOD LIFEフェア2022」(朝日新聞社主催)に、ベルマーク財団がブースを出展しました。このイベントは、SDGsに取り組む企業・団体の活動を知ること、「GOOD LIFE(心地よい豊かな生活)」に結びつく身近な選択肢に出あうことができるというコンセプトで開催され、3日間でのべ2万人近くが訪れました。

財団はこの3年間、コロナ禍の影響で、毎年5、6月に開いているベルマーク運動説明会を中止しています。今回のフェアは久しぶりに、来場者に対面でベルマーク運動の魅力が伝えられる貴重な

機会でした。

ベルマーク財団のブース入り口では、公式キャラクター「ベルマークくん」がお出迎え。大きなパネルの横に立ち、写真撮影をしてくれた親子もいました。ブースがより多くの来場者の目に留まるよう、通路に向けたモニターも設置し、動画「未来を育むベルマーク」を上映。ブース内には、60年余りの運動の歩みを記した年表、運動のしくみや意義を説明するパネルを展示しました。

来場者の反応が一番大きかったのは、協賛会社のベルマーク付き商品の実物展示でした。実際に手にとってマークの位置を確認する人も多く、「これにも付い

てるんだ」「マークが切り取りやすくなっているね」「普段から学校で使って、集めてるよ」といった声が聞かれました。協賛会社の主な商品が載っている一覧表も一人ひとりに手渡しましたが、中には「周りに配りたいので追加が欲しい」と話しかけてくれた人もいました。

「自分の学校のためだけでなく、へき地学校や被災地の学校などへの支援にもなるなんて知らなかった」と、ベルマーク運動の持つ2つの役割に感心した人がいれば、「ベルマーク持ってきました!」とたくさんのマークを手を、小走りでブースにやってきた人もいました。「子どもは大きくなったけれど、集める

癖が付いています。役立てるにはどうしたらよいか」という質問には、寄贈マークとして財団に送ると支援に生かせることを伝えました。

来場者にはアンケートへの協力をお願いしました。集まった500超の回答は、今後のベルマーク運動の参考にさせていただきます。

ご来場いただき  
ありがとうございました



## 東日本大震災から11年、今年度も支援

### 2022年度、112校に総額600万円相当

東日本大震災発生から11年が経ちました。復興に向けた取り組みが進んでいますが、同時に、向き合わなければならない課題も多く残されています。ベルマーク財団は2022年度も被災校への支援を実施します。支援対象は岩手・宮城・福島3県の小中学校112校で、支援総額は600万円相当です。

財団は、2011年の震災発生直後、被災校にノートや鉛筆を寄贈したことを皮切りに、現在まで支援を継続しています。その総額は5億円を超えました。

支援の原資は、ベルマーク運動参加団体からの友愛援

助寄付、全国各地から「被災校のために使ってほしい」と財団に寄せられた寄贈マーク、ウェブベルマーク協会からの助成金、そして、参加団体のベルマーク活動から生み出された援助資金です。参加団体が貯めたベルマーク預金でお買いものをすると、購入額の1割が自動的に財団に寄付されます。

このような支援は、子どもたちを思い、ベルマークを集めて送ってくださる皆さんの活動があって成り立っています。財団はこれからも、全ての子どもたちが等しく笑顔で学べるよう、支援を続けていきます。



昨年度の支援先から届いた、備品を活用している写真